



# 光桂寺だより

第211号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201  
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

## 二〇二〇年度年間行事

三月二十九日(日) 光桂寺(総代、門徒会総代) 総代会

四月 十二日(日)

花祭り、  
第二十回誕生お祝いの会

四月 十八日(土)

光桂寺門徒会総会

五月 九日(土)

春の永代経 講師 蓮明寺様

八月 十二日(水)

盆供養

十二月 十二日(水)

盆おどり

九月 十九日(土)

婦人会追弔会 講師 西宗寺様

十月 十日(土)

秋の永代経 講師 浄慈寺様

十一月 十四日(土)

光桂寺上山奉仕団研修(本山)

十二月 十六日(月)

子ども報恩講

十二月 十七日(木)

報恩講 講師 徳常寺様

十二月 十七日(木)

初おぼん

十二月 十八日(金)

報恩講 講師 徳常寺様

三月 十七日(水)

婦人会総会 講師 西宗寺様

### お世話前

五月 九日(土)

春の永代経  
平方、光行、古飯、宝城団地

十月 十日(土)

秋の永代経 末次

十二月 十七日(木)

報恩講 八坂、馬渡

十二月 十八日(金)

報恩講 城、京手、十楽

### 婦人会のお世話

四月 十二日(日)

花祭り、  
第二十回誕生お祝いの会  
(婦人会三役)

九月 十九日(土)

婦人会追弔会

十二月 十二日(土)

子ども報恩講

十二月 十七日(木)

おとき(婦人会有志)

三月 十七日(水)

初おぼん法要(婦人会有志)  
婦人会総会

## 掲示伝道(十二月)

毎日 毎日が 人生の大晦日

十二月は師走とも言われ、誰しも何かと心せわしい思いになる。

動物・植物も季節の移り変わりの中にある中に生きているには違いないが、月日・時間に追われている様子はない。大自然に順応して、その時その時を精一杯に生きているようである。

「怠け者の節句働き」と昔のことわざにあるように、その日その日の仕事をのぼしのぼしすると、どたん場になってあわてることになる。

しかし、生命そのものは人間も、動物も、植物も、生きとし生けるもの全て、命がけで今日を生きている。ただし、その事を自覚できるのは人間だけである。

本多 恵著「いのちのことは」より

## 門徒会館建設について

十二月二十七日に開かれた光桂寺総代会に、門徒会館建設検討小委員会からの「平面見取り図」が提示されました。総代会ではこの平面図を建設委員会へ付託し、検討をすることが決まりました。

なお、検討に先立ち、建設委員会の立ち上げをするために、光桂寺総代会として、任命をする人選に直ちに入ることとなり、いま当たつてあるところです。

### 門徒会館建設小委員会報告

光桂寺新門徒会館に必要な機能と規模を検討して総代会に提案することを目的として、建設検討小委員会を開催したので、結果を報告する。

#### 開催記録

- 第一回…九月十四日(出席七名、欠席三名)
- 第二回…十月十九日(出席九名、欠席一名)
- 第三回…十一月十七日(出席八名、欠席二名)

#### 新門徒会館のコンセプト(光桂寺の目指す姿)

- 門徒や地域に開かれたお寺を目指す
- ・門徒や地域の方々がもつと気軽に出入りできるような環境を作る。
- ・お茶等を飲みながら、気軽に話が出来るような環境を作る。
- ・お年寄りと保育園児とのふれあいも可能にしたい。
- 今後五十年を見据えた設備を備える
- ・お寺で法事(年忌法要)やお齋が可能な設備
- ・法要のお世話前に十分な広さを持った厨房。

- ・祭壇等を備え、地元で小規模な通夜・葬儀を勤めることができる、使い勝手が良いホールや控え室。
- ・お年寄りの避難所としても使えるようにバリアフリー化。
- ・お内仏(ご本尊・過去帳)を預かれるような設備。

#### 新門徒会館に必要な設備

##### ○厨房

現在の厨房(庫裏内)の一・五倍の広さが必要。

- ・校区公民館にあるような島式の調理台(シンク、コンロ、調理台が一体化したもの)が二台、壁面に大型のコンロ一台。配膳台。
- ・休憩所、荷物置き場となる厨房控え室。
- ・外から直接厨房に搬入できるような勝手口や、下処理場として外部に洗い場も備える。
- ・厨房とホールは隣り合わせ、カウンター越しに配膳できるようにする。
- ホール(法事会館。小規模葬儀、大規模会議が可能)
- ・四十八席の通夜・葬儀、四〇席の会議、四十八席のお齋が可能。
- ・二分割可能として、法事十二席とお齋十六席が同時に対応できる。
- ・お内仏横に「お内仏ロッカー」を設置。絶家の本尊・過去帳を保管。

##### ○玄関

- ・駐車場から玄関までを緩やかにスロープ化し、会館全体と本堂の床の高さを合わせる。バリアフリー化と水害対策を兼ねる。
- ・着座での靴の脱ぎ履き、十分な大きさの下駄箱に対応した広めの玄関ホール。

##### ○接待所(コミュニティスペース)

- ・四名テーブル×三つ〓十二名の対応が可能な広さ。
- ・玄関から本堂への通路も兼ねる。
- ・外がよく見えるようにして、カフェのような使い方も想定。

##### ○寺務所

- ・寺族の日常的な事務作業部屋(三〓四名分の広さ)。収納庫込みで二十四畳。
- ・事務スペース、支度部屋(法衣部屋)、書類棚等を備える。

##### ○トイレ

- ・男女別(女性:個室三、男性:個室一、小用三)
- ・基本洋式。車いす対応トイレや幼児用トイレも設置。

##### ○客間、控え室

- ・客間は十五畳の畳部屋を二分割可能。
- ・遺族控え室や、講師の滞在利用も想定して、洗面ユニットバスを併設。
- ・本堂裏手にも控え室、収納を設置。花立て用の水場も。

謹んでおくやみ申し上げます

## 教区改編、組改編に対しての 組門徒会の意見

一月九日に横隈の明願寺において、三井西組の門徒会が開催された。ここでの話し合いは、教区改編・組改編に対しての、門徒会の意見集約ということであったが、結論として門徒会としては、三井西組組会（住職の会議）の決定に従い行動するということとなった。

### その後の動き

教区改編、組改編についての三井西組の組会（住職の会議）の話し合いが、一月二十四日に横隈の明願寺で開かれた。特に組改編を議題として話し合うための会であったが、かねてから教務所へ求めていた資料（回答）が示されていないので、「組会」審議を進めることが出来ないとの結論となり、改めてまずは資料の提供を「久留米教務所」へ求めることとなった。

### 年回表について

本堂に掲示している「年回表」の説明をしておきます。一行は五段書きとなっております。一段目は亡くなられた日（命日）です。二段目は、どこの地区か、三段目は喪主のお名前です。四段目は亡くなられた方と喪主の関係を表しています。最下段は、亡くなられた方のお名前です。喪主と姓が違う場合は、フルネームとなっております。

なお念のための付け加えですが、一周忌のみ満で（マル一年目）、三回忌以降は数え年（亡くなられた年を一年目とする）で勘定します。

従って例えば三回忌は、二年目に迎えることとなります。

## 「終活について語り合う会」 が開かれました

光桂寺を盛り上げる会（代表 廣瀬勝栄氏）では、十一月三十日（土）に、講師として九州大谷短期大学の「中島 航先生」を迎え、『終活について語り合う会』が開かれました。

広く皆さん方に呼びかけて、午後一時半から開かれましたが、当日は盛り上げる会を中心に、二十六名の参加がありました。

ところで『終活』という言葉は造語であり、一般的には「終わりに向けた活動」「死に支度準備」「老い支度」「エンディングノート」などという受け止め方がなされ、「人生の終わりに向けて活動すること」「残りの人生をよりよく生きるため、葬儀や墓、遺言や遺産相続などを元気づけに考えて準備すること」などと言われています。

講師の「中島先生」は、要約すると次のようなお話をされました。

老後には病と死しかない。今から考えを始めなければ間に合わない。終活を考えるとき、家族の状況や身寄りの有無で考えていく必要がある。○心の終活は誰もが考えなければならぬ問題で、次のような内容である

### 老病死に対する苦しみ

### どこへ向うのか（死後の世界）

### 私の人生は何だったのかという問い

○手続きの終活には個人差がある。家族や環

境、状況によって個人差がある内容として、は、次のようなことがある

### 財産、保険、終末の医療、介護

このようなことから、まずは終活をする目的は自分のことなのか、遺される者のことなのか、しっかり考えなくてはならない。

・最初のステップとして、自分が引き継いだとき、何を遺されたのかを考える。（気持ち、思い、心を伝える相続。バトンをどうもらったか）

・受け継いだ心、言葉、願いを考える必要がある。

・引継ぎがなく、自分として本当に困った事考える。（困った事の伝え方を考える）

・見えるもの、見えないものを考えてみる。

・自分のエゴの終活となっていないか、自分勝手な思いを反映していないか考える。

・そして何より大切なのは、家族との意思の交流であると感じました。



講義風景（九州大谷短期大 中島 航先生）



語り合い（座談）の様子

十二月にはこんなことが光桂寺でありました

### 子ども報恩講



二〇一九年十二月十四日(土曜日)、午前九時から午後五時までの予定で、夏の寺子屋に参加した五十五名に案内をして、小学校一年生から五年生までの児童十五名の参加者がありました。

正信偈のお参り(正信偈を読む)に始まり、親鸞聖人の御絵伝(親鸞聖人の一生を描いた絵の軸)を見ながら、絵解物語を聞きました。御絵伝の話では、山伏「弁念」の話子どもたちは興味津々に聴いていました。



正信偈をみんなで読む



御絵伝の絵解きを聞く

その後お団子でのお華束(お餅で作ったお飾り)作りが始まり、まず団子粉をこねて団子作りを楽しみました。

お昼ご飯は、光桂寺婦人会の有志の方々により造られた御齋(おとき)の精進料理が振舞われ、堪能しました。



お団子でのお華束作り



精進料理を味わう

御齋の後は、本堂裏の原っぱで、鬼ごっこをして遊びました。そのあと竹を切って薪を作り、枯葉を集めて火を起こし、おやつ焼き芋を焼きました。

おやつの後、お華束作りの続き、御団子を束ねて盛り上げ、赤や緑の色付けを楽しみました。出来上がったお華束は本堂正面の阿弥陀さまにお供えをしました。



たきぎを作って焼き芋を焼く



お華束の色付け

最後の絵本の読み聞かせが終わり、御本尊の阿弥陀如来さまに合掌礼拝をして解散となりました。

### 初おぼん

十二月十七日午後六時から本堂で、昨年从今年にかけて亡くなられたお宅にご案内をし、お寺での「初おぼん」報恩講を勤めました。今までは、各お宅で勤めていただいていた「初おぼん」の法要を、お参りするための調整(日にちや時間)が困難となってきたため、寺での合同の「初おぼん」の法要となった訳であります。

当日は、十八名の方の参詣があり、報恩講の飾りがある本堂で、正信偈と一緒に読み、法話を聞いていただき、ささやかな茶話会のひと時を過していただきました。

### 「供養」とはこんなことです

「広く恩を知るが故に供養す」(智度論)と聖典(お経)には説かれています。このことは、「供養」とは決して亡くなった人を向こうに置いて拝む世界ではないということです。

私たちは身近な者の死に出会ったとき、その悲しみの中で何を知らされ、どんな声を聞いているのでしょうか。亡くなった親のおかげで、先立った子どものおかげで、と言えるものが見つかってこそ、ほんとうの供養なのであります。